

1 自己評価及び外部評価結果 (1F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201059		
法人名	株式会社オフィスシンセリティ		
事業所名	グループホームやまと紅葉館 1F		
所在地	愛知県一宮市大和町馬引横手15番地の1		
自己評価作成日	平成22年 1月31日	評価結果市町村受理日	平成22年 9月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372201059&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事や四季が分かるように、フロアの飾りつけなど手作りに努めています。あたり前のことをあたり前のように行えるよう、利用者の一人ひとりの希望を伺い、満足していただけるよう、支援・提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の皆さんから助けてもらい、高齢者が暮らす地域の一世代として、また、利用者が地域の一員として当たり前で暮らせる事を目標として、「生涯家族」を指針にした支援がある。利用者の真の希望は何かを探り、個別対応を行わなくては、本当の利用者・家族満足にはならないという思いで、さらに充実した支援を目指す、熱い思いのホームである。今年度特に興味深かったのは、「食」に対する法人の考え方である。食事に対する三大ポリシーとして、安全安心な食事 からだにやさしい食事 おいしい食事 を掲げ、食材にもこだわった食事提供を実現している。主食のお米は法人の全事業所分を農家から直接買い付け、副食の肉・魚・野菜は市場に直接仕入れに行くという徹底ぶりである。次回訪問調査時にはどんな熱い思いが感じられるか、楽しみなホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「礼節と尊厳」の運営理念のもと全員が「生涯家族」という思いを共有し、理念に基づいた支援を行うため、毎月一回フロアカンファレンスの場を設けている。また日々のケースについては申し送り等の中で対応を検討し実践している。	「生涯家族」の思いの共有を図り、「利用者が当たり前のことを当たり前に行える支援」を目指し、日々の介護支援に反映させている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園を散歩コースとし、保育園の行事の見学をさせてもらっている。運動会の際など、車椅子席を設けて頂き利用者全員観戦させて頂いている。	地域に対するホーム存在のアピール、そこで暮らす高齢者理解の働きかけも功を奏し、地域理解もますます充実の感がある。利用者の単独外出時の不穩連絡、地域の市場との連携(食材配達・マグロ解体ショーなど)等、利用者に密接した連携がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りを行い、盆踊りや屋台を出店し、地域の皆さんに参加して頂けるよう地域の回覧板にて案内をまわして頂いている。一宮太鼓の保存会の皆さんを招いての競演など、地域の夏の風物詩になれるように努力している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた事項について、その経過を報告し、一つ一つ積み上げていくようにしている。	制度の目的に沿った運用があり、行政・地域との意見交換・情報交換の場として活用している。参加者の意見・提案・助言をホーム運営に活して行く意識が高い。	運営推進会議の目的・運用の理解は充分であるが、年6回の開催がない事が残念である。「報告事項に困る事がある」の管理者意見もあるが、事業所アピールの場として活用するのも方法である事を提案したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では市町村と共にサービスの向上に取組む体制ができていない。	運営推進会議を通じた市担当者との連携の他に、地域包括支援センターとの連携も進めている。困難事例相談、利用者紹介等の事例もあり、相互訪問の協力関係で取り組んでいる。	地域包括支援センターとの連携を市担当に報告する等、ホームの取り組みを市担当により理解してもらう事も、協力関係のきっかけとして有効であるように思われる。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行う必要が無く、行っていない。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しているか、再確認している。	ホーム内研修・勉強会で、身体拘束に関わる知識を深め、身体拘束のない支援を実践し、「利用者が当たり前のことを当たり前に行える支援」に通ずる取り組みにつなげている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取組みを行っている。虐待については各自防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度について理解して知っていたが、必要な利用者がいなかったので活用していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、個々の立場にたって解りやすく説明している。また、後日発生した問題点などのお問い合わせにも、その都度対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を引き出せるように、利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。その時々を利用者の不安、意見等は話し合いを行い、特定のスタッフの中に埋もれないようにしている。	日々の生活を共にする利用者の意見・要望については、職員間で気付きを共有する等の工夫があり、運営への反映を果たしている。家族に対しては、訪問時・電話連絡時等を活用して、直接の意見聴き取りに努めている。	今回家族アンケートにおいても、様々な意見・要望が寄せられている事から、今一度の意見聴取方法の検討を提案したい。また、聴き取った意見・要望の検討結果のフィードバックなど、さらに一歩近付いた関係確立が望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、各館にてミーティングを行っている。他、本部にて管理者会議を行って意見を聞く機会を設けている。	月に一度のユニット会議を行い、職員意見を集約して、リーダー以上が対象となる本部会議に上げる体制がある。今回職員ヒアリングでも、組織体制が充実してきたとの意見もある。上層部に意見を聞いてもらえる安心感も聴き取れる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業績評価を行い、スタッフ個々の努力や実績を把握するようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修への参加に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人に会って心身の状態、苦しんでいること、困っていることを正しく把握するよう努める。また事前面談は、必要だと判断したら、複数回、職員が本人に受け入れられるようになるまで行う場合もある。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し本部へも相談、連携しながら改善に向けた支援を提案するように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念にもあるように、礼節と尊厳を重んじ、人生の先輩として敬意を表しながら、お互いが大切な家族になれるよう、自分らしく楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に本人を支えていく気持ちの有無や大きさには家族によって差があり、面会時や、お電話等で利用者の生活を共に支援していく対等な関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の思い出の場所へ都度お連れすることは難しいが、家族とお墓や自宅へ行ったりして過ごされる時間をつくって頂けるように努めている。	利用者全員に対してという事は叶わないまでも、希望・意向のある限り、柔軟な対応に努めている。また、家族との関係継続の支援も視野に入れ、家族を思う利用者の気持ちに配慮した、橋渡しの支援にも力を入れている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で利用者同士で解決出来るものもあるので、利用者の主体性を大切にスタッフは黒子のような存在になったり、利用者間の意思疎通を図るお手伝いをし、互いが良好な関係をとれる手助けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、気軽に来てくださいと、お伝えしている。入院等で退所された場合など、千羽鶴を皆で折って届けたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、その人らしく暮らして頂けるよう支援をし、一人ひとりの思いや希望に添えるように努めている。	日常の暮らしの中で、利用者の希望・意向を把握し、実現に向けた介護計画の検討を実践している。意思表示が困難な利用者の意向・希望に関しては、利用者の笑顔・顔つき・うなずき等からも把握を図り、本人本位の検討を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、利用者の歴史や、趣味、また入所に至った経緯を得ながら、ご本人のお話を聞き、情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りや、月一度のカンファレンスで話し合い、スタッフ同士の情報の共有に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく暮らし続けられるための介護計画を作成し、「生きがい」や「楽しみ」が反映されるように努めている。	月一回のユニット会議、日々の申し送り等で利用者の情報を共有し、利用者それぞれの「普通の生活」を介護計画に落とし込むように努めている。利用者毎の普通の生活には、それまでの生活の反映が大前提となっている。	今回家族アンケートから、計画の承認のみでなく、作成段階での話し合いを望む声があった。日々の暮らしの詳しい説明やそこから考えるプラン等、作成以前の取り組みの検討が望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で、変化や家族の要望を取り入れ修正し、随時対応できるように努力している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への送迎を行ったり、桜館のデイサービスを利用し、プログラムに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察との協力と支援をととても大切にしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の同意を得ながら、主に、協力医療機関がかかりつけ医として、ご利用頂いている。受診の際は、職員が同行し専門医に詳しく症状を説明するようにしている。	ホーム提携医の他、希望があれば、家族対応で馴染みの医療機関への継続受診も可能としている。また、眼科・歯科等の専門医受診についても、家族と話し合いながら柔軟に対応し、利用者の安心に配慮している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と常に連絡が取れるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心身のダメージ、ストレスや負担を軽減するために、家族と相談しながら医療機関に対して話し合いの機会を設けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や重い病気であることが解った時など、家族やスタッフ、医師と相談しながら、方針を共有している。	急変時・状態悪化時等、医療が必要になった場合には病院への搬送を行うが、通常の状態、終末期を迎える場合は、利用者・家族の意向にできるだけ沿う方針がある。必要なときに必要な話し合いを重ね、利用者にとって一番良い支援を選択している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の対応訓練を定期的実施していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震時、火災時の避難訓練を年に2回実施する予定をしている。	年2回の避難訓練を実施し、勤務状況等で参加できない職員には、内容の回覧を行い、意識を高めている。また、運営推進会議等の機会に、地域への協力を依頼している。	地域への協力依頼に関しては、具体的な体制作りには至っていないのが残念である。運営推進会議の際に避難訓練を実施する等、より理解を得られる働きかけを工夫し、地域の協力の具体化が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームならではの温かく親しみのある会話は大切であり、常に、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないように心がけている。	良い意味で「利用者の顔色をうかがう」支援の実践があり、利用者それぞれの「不愉快」の職員間周知を図っている。利用者への言葉かけ・態度に注意し、精神的にも自由な生活に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は入所まで、自由に自分なりの生活を送っていたので、一人ひとり違った対応や働きかけに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやその日に本人がしたいと思っていることを大切にしている。出来る限り一人ひとりのペースを大切にしよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望に合わせて理美容院の利用支援をしている。家族と一緒に行き慣れたお店に行かれたり、施設まで理美容師に来てもらって対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは一緒に行っている。積極的に動いて下さる方や、声かけで行って頂いていることが多い。	その日のメニューをホワイトボードに手書きで掲示し、利用者の食事の楽しみに工夫している。作り方・味付けを利用者に相談したり、下ごしらえをお願いしたりと、和気あいあいの雰囲気がある。食事の時間も、職員が楽しく場を盛り上げ、利用者の食を進めていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し本人の習慣や有する能力を活かしながら、口腔ケアの支援を行っている。 義歯の手入れも充分に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の際は、自室やトイレへ誘導し、さりげなく自信を失わないように対応している。確認の場合は、羞恥心、プライバシーを損ねないようにしている。	トイレでの排泄を基本として、利用者毎に合った支援を実践している。排泄パターンを把握し、定時の声かを行う場合も、プライバシーに配慮した対応に努めている。	今回の家族アンケートの中に、「自立排泄ができるのにオムツが使われている」旨の意見があった。パット・リハパン等、家族には分かりにくい介護用品であると思われるので、実物を提示した説明の機会が望まれる。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、一人ひとりのペースに合わせた運動を勧め、体を動かさず働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間はおおよそ決まっている。一人ひとりのタイミングに合わせて入浴して頂いているが、希望に添えない場合もある。	訪問調査日当日の視察でも、自ら着替えを持ち、身支度をして浴室に向かう利用者の姿があり、ほほえましい光景であった。入浴は毎日対応し、利用者の希望を優先に支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂けるよう個別に対応、支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を見て理解に努めている。飲み忘れや、誤薬を防ぐため、薬の袋に毎日の日付を書くなど、薬に対する意識を高める対応に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの「昔とった杵柄」を把握し日常的に活かしている。家事・畑など、得意分野や楽しみなど活躍できる場面を見出すよう配慮している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は散歩に出かけたり、食材料の買出しに同行して頂く等支援している。	ホーム周辺の単独散歩、希望する利用者の近隣散歩等を支援している。行事外出・法人夏祭り等は利用者の楽しみでもある。	ホームから提供する外出支援に留まらず、利用者の行きたいところへの外出支援が望まれる。年に一回の「希望実現の日」等、利用者の真の希望把握が必要となることから、対応の検討が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてご家族よりお預かりしたお金以外に、希望者にはご家族と相談の上、利用者本人が自己管理するお金を持って頂くよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力が得られている方については、電話の希望があった場合はプライバシーに配慮しながら個別に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには花壇で育てた季節の花を飾るよう努めている。また、フロアーをギャラリースペースにして、温かく室内にいても季節を感じられるようにしている。	玄関アプローチからホーム内部まで、家庭的な雰囲気漂い、「生涯家族」の暮らす生活環境には何ら問題は感じられない。ホームのどこにいても「楽しさ」が感じられ、利用者が笑顔になれる暖かさがある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置くなどして、落ち着くコーナー作りの工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品々を置いて頂いている。	写真や作品を掲示、使い慣れた家具や道具を配置等、利用者・家族と話し合いながら居室の環境を整えるように努め、不安なく過ごせる居室整備に配慮している。当日に視察させていただいた居室も、馴染みの家具が持ち込まれた、「我が家」の雰囲気があった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの状態にあわせて手すりを使ったり、シルバーカーを利用されるなど工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果 (2F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201059		
法人名	株式会社オフィスシンセイ「ティ		
事業所名	グループホームやまと紅葉館 2F		
所在地	愛知県一宮市大和町馬引横手		
自己評価作成日	平成22年 1月31日	評価結果市町村受理日	平成22年 9月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372201059&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者がその人らしく生活して頂けるよう、お一人おひとりの思いを生活の中に取り入れること、また一宮市初のグループホームとして地域との連携を深く築けるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「礼節と尊厳」の運営方針のもと全員が「生涯家族」とあるという思いを共有し、理念に基づいた支援を行うため、毎月一回フロアカンファレンスの場を設けている。また、日々のケースについては、申し送り等の中で対応を検討し実践している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園を散歩コースとし、保育園の行事の見学をさせてもらっている。運動会の際など、車椅子席を設けて頂き、観戦させて頂いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りを行い、盆踊りや屋台を出店し、地域の皆さんに参加して頂けるよう地域の回覧板にて案内をまわして頂いている。一宮太鼓の保存会のみなさんを招いての競演など、地域の夏の風物詩になれるように努力している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた事項について、その経過を報告し、一つ一つ積み上げていくようにしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では市町村と共にサービスの向上に取組む体制が出来ていない。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行う必要が無く、行っていない。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しているが、再確認している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取組みを行っている。虐待については各自防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度について理解して知っているが、必要な利用者がいなかったので活用していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、個々の立場にたって解りやすく説明している。また、後日発生した問題点などの問合せにも、その都度対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を引き出せるように、利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。その時々を利用者の不安、意見等は話し合いを行い、特定のスタッフの中に埋もれないようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、ミーティングを行っている。他、本部にて管理者会議を行って意見を聞く機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価を行い、スタッフ個々の努力や実績を把握するようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人に会って心身の状態、苦しんでいること、困っていることを正しく把握するよう努める。また、事前面談は、必要だと判断したら複数回、職員が本人に受け入れられるようになるまで行う場合もある。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し本部へも相談、連携しながら、改善に向けた支援を提案するように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念にもあるように、礼節と尊厳を重んじ、人生の先輩として敬意を表しながら、お互いが大切な家族になれるよう、自分らしく楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に本人を支えていく気持ちの有無や大きさには家族によって差があり、面会時やお電話等で利用者の生活を共に支援していく対等な関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の思い出の場所へ都度お連れすることは難しいが、家族とお墓や自宅へ行ったりして過ごされる時間をつくって頂けるように努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で利用者同士で解決できるものもあるので、利用者の主体性を大切にスタッフは黒子のような存在になったり、利用者間の意思疎通を図るお手伝いをし、互いが良好な関係をとれる手助けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、気軽に来てくださいと、お伝えしている。入院等で退所された場合など、千羽鶴を皆で折って届けたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、その人らしく暮らして頂けるよう支援をし、一人ひとりの思いや希望に添えるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、利用者の歴史や趣味、また入所に至った経緯を得ながら、ご本人のお話を聞き、情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りや、月一回のカンファレンスで話し合い、スタッフ同士の情報の共有に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく暮らし続けられるための介護計画を作成し、「生きがい」や「楽しみ」が反映されるように努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で、変化や家族の要望を取り入れ修正し、随時対応できるように努力している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への送迎を行ったり、桜館のデイサービスを利用し、プログラムに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察との協力と支援をとっても大切にしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の同意を得ながら、主に、協力医療機関がかかりつけ医としてご利用頂いている。受診の際は、職員が同行し専門医に詳しく症状を説明するようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と常に連絡が取れるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心身のダメージ、ストレスや負担を軽減するために、家族と相談しながら医療機関に対して話し合いの機会を設けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や重い病気であることが解った時など、家族やスタッフ、医師と相談しながら、方針を共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の対応訓練を定期的実施していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震時、火災時の避難訓練を年2回実施する予定をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームならではの温かく親しみのある会話は大切であり、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないように心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は入所まで、自由に自分なりの生活を送っていたので、一人ひとり違った対応や働きかけに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやその日に本人がしたいと思っていることを大切にしている。 出来る限り一人ひとりのペースを大切にしよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望に合わせて理美容院の利用支援をしている。家族と一緒に行き慣れたお店に行かれたり、施設まで理美容師に来てもらって対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは一緒に行っている。積極的に動いて下さる方や、声かけで行って頂いていることが多い。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し本人の習慣や有する能力を活かしながら、口腔ケアを行っている。 義歯の手入れも充分に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の際は、自室やトイレへ誘導し、さりげなく自信を失わないように対応している。確認の場合は、羞恥心、プライバシーを損ねないようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、一人ひとりのペースに合わせた運動を勧め、体を動かさず働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間はおおよそ決まっている。一人ひとりのタイミングに合わせて入浴して頂いているが、希望に添えない場合もある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂けるよう個別に対応、支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を見て理解に努めている。飲み忘れや、誤薬を防ぐため、薬の袋に毎日の日付を書くなど、薬に対する意識を高める対応に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの「昔とった杵柄」を把握し日常的に活かしている。家事・畑など得意分野や楽しみなど活躍できる場面を見出すよう配慮している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は散歩に出かけたり、食材料の買出しに同行して頂く等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームにてご家族よりお預かりしたお金以外に、希望者にはご家族と相談の上、利用者本人が自己管理するお金を持って頂くよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族の協力が得られている方については、電話の希望があった場合はプライバシーに配慮しながら個別に支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テーブルには花壇で育てた季節の花を飾るよう努めている。また、フロアーをギャラリースペースにして、温かく室内にいても季節を感じられるようにしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを置くなどして、落ち着くコーナー作りの工夫をしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や思い出の品々を置いて頂いている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ADLの状態に合わせて手すりを使ったり、シルバーカーを利用されるなど工夫している。</p>		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の規定回数の実施がない。	開催回数を増やし、徐々に規定回数に近づける。	年2回の開催を、今年は年4回(3ヶ月に1回)開催する。	12ヶ月
2	26	介護計画作成段階で、家族との話し合いが出来てなく、家族の意見・要望が反映されていない。家族に対して、入居者がどのように生活されているか伝えることに欠けていたと思われる。	日々の生活状況をふまえて、本人や家族の意見・要望が反映された介護計画を作成する。	利用者の変化・様子を報告できるよう書面にして、面会時にお伝えする。職員一人ひとりが、利用者の生活の状況を家族へ説明できるように意識付け、面会時や、電話連絡時に家族の意見・要望を伺う。	12ヶ月
3	49	日常的な外出支援について、本人の希望を把握できていない。何も言われないのではなく、言えないという内面を理解できていない。	利用者の真の希望を把握し、実現できるよう取組みたい。	遠慮されている方については、個別で対応し、会話の中で、コミュニケーションをとりながら、本人の希望を引き出す。他の職員、家族の協力を得ながら、できる事から実現する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。